

令和2年2月号



学校教育目標

十二月田小だより

進んで学ぶ子 仲良くできる子 たくましい子
児童数 男子497名 女子461名 計958名

川口市立十二月田小学校

川口市朝日1-11-1

TEL (048)222-4383

FAX (048)222-9388

㊦っかりと聞き・㊦くわく未来を語り・㊦すんで学び・㊦れにも仲良くできる しわすだっ子

三つ心 六つ躰 ～ 江戸の子育てに学ぶ ～

校長 石井 宏明

本校では、これまでに音楽科での「お琴教室」や「雅楽体験教室」、第4学年の社会科見学を古都「川越」に、第1学年では地域の方々をお招きした「昔遊び」等々、日本人の素晴らしさや日本のよさ、文化伝統、人々のつながりを実感できる取組を行ってまいりました。

ところで、現在は子育てのことを「教育」といいますが、江戸時代では、子供は養い育むものと考え、「養育」「鍛育」と表現しており、「教育」と呼ばれるようになったのは、明治時代になり学制が敷かれてからだそうです。江戸時代の大人たちは、「三つ心、六つ躰、九つ言葉、文十二、理(ことわり)十五で末決まる」と言って、子供達の段階的養育法を考え、現在の全人教育を実践したそうです。

「三つ心」とは、3歳までが、心の糸をしっかりと張る時期だということです。

江戸の町衆たちは、人間は「頭(脳)」と「からだ」と「心」の3つからなっていると考え、心を、頭とからだを結び付けるマリオネットの操り糸のようなものと考え、数え年の3歳までに、この見えない心の糸をしっかりと張らなければならないと考えたようです。

糸は一日一本として、3年で約 1,000 本を張るつもりで親なら誰もが心がけよ、ということだったようです。しかし、親だけでは大変です。ですから、わが子も他人の子も、みな同じ心で子供の行いに目を配り、声を掛け合ったといわれます。心の糸で頭とからだを操る。これが心の役割です。目つき、表情、ものの言い方、身のこなしなど、自分のしぐさになって出るものはすべて、この心がコントロールするのだということをお子たちに悟らせたそうです。

心は目に見えませんが、しぐさになると誰の目にも明らかです。しぐさにはその人の心のありようが表れます。それほど、江戸時代の人々は心の育ちを第一に考え、親や大人のしぐさを見取らせた(見習わせること、見よう見まねをさせること)のです。

「六つ躰」とは、3歳から6歳までが、トレーニングによりいろいろなことを身に付ける時期だということです。3歳でマリオネットの糸を上手に張ったら、六歳までにはこれを上手に美しく動かすことを学ぶということです。教え込むのではなく、親がすることをひたすらまねさせたといえます。人とのあいさつや対応、迷惑をかけないしぐさや親切、ごはんの食べ方、箸の使い方、履物の脱ぎ方など、日常のしぐさを自然にそのしぐさが出るようになるまで、くり返しくり返し行わせたそうです。

この教育法は、令和となり、大きく変貌をとげた現代社会における教育においても大切にすべき手法だと考えております。教育においては、時には形から入り、後から理を教えることも必要です。

また、「学ぶ」は「真似ぶ」からのとおり、家庭や学校におけるよりよい行いをしっかりと見取らせ、真似させることにより、子供たち一人一人が自分の夢や目標の実現の基礎ができます。

私たち教職員も子供たちのよい手本となるよう自らを律し、家庭、地域の皆様とともに「未来を拓く しわすだ笑楽幸」として、教育に取り組んでまいりたいと存じます。まずは、「ドアは開けたら、閉める」「教室を空けるときは電気を消す」「ゴミは踏まない、避けない、またがない」ことから。